聖　心

カトリック聖心教会
豊田市聖心町 4-44-13

発行　2024 年 8 月
125 号(HP 用)

聖母の被昇天

エルネスト　島袋幹男　主任司祭

カトリック教会は毎年８月１５日、聖母被昇天祭日としてお祝いしています。日本では太平洋戦争終わりの記念日にあたって、全国ではどんな宗教であれ　祈りの日を過ごしています。

日本のカトリック教会では毎年８月６日から8月15日は平和旬間として、太平洋戦争の被害者と加害者のため、また二度と恐ろしい事を行わないことを祈り続けています。

しかしながら戦争好きな人間があらわれる。新型コロナウイルスの問題が終わらないうちに、　ロシアとウクライナの戦争が始まり、今でも続けています。

またガザとイスラエルの戦争も続いている。世界中でいろんな国で部族間の問題、政府と国民の問題などがおこっています。

私たちには何をできるのか、教会として、キリスト者として、人間として考えなければなりません。

今年の平和旬間の中で、聖母被昇天の祭日の中で、祈りを通して、私たちは命を大事にする教会の信者として、正義と平和を守りましょう。平等な神の子として幸せな世界をつくりましょう。

世界で神の平和が広がりますように！！

May peace prevail on earth!

「ふくれまんじゅう」の思い出

シスタ・テレジタ・久松

十　聖母被昇天祭　おめでとうございます！

長崎の出津で育った私は、子どものころ、8 月 15～17 日の 3 日間は、「ふくれまんじゅう」と「トコロテン」をたくさん作って盛大に祝ったものです。この三日間は何も仕事をせず、大人も子どももふくれまんじゅうとトコロテンを食べて過ごし、どこの家庭に遊びに行ってもふくれまんじゅうとトコロテンでもてなされました。 その準備は、まず春から始まり、たくさんの天草を海からとってきて天日に干し、それを夏まで保存しておきます。聖母被昇天祭の 10 日くらい前になると保存してあった天草を、川の流れで洗っては干し、洗っては干し、一週間くらい続けてくり返しているうちに天草は真っ白になります。8 月 13 日には その天草を庭に作ったくどで煮て 汁を固めていきます。持っている天草を全部煮て、汁を固めます。固めたものを毎日、冷たいきれいな水に変えて保存し、食べる時にトコロテンの型に入れて突き出せば食べられるように準備しておきます。

いよいよ、8 月 14 日になると、家族中総出で「ふくれまんじゅう」作りにかかります。（その前に 8 月に入った頃、子どもたちは近くの小山に行って、「かっからの葉」（サルトリイバラの葉）　をたくさん取ってきておきます。これをまんじゅうの下に敷くためです。）　早朝に両親は、庭で小豆を煮てあんこを作り、小麦粉を練ってまんじゅうの大きさに丸めていきます。子どもは、あんこを小さく丸めておきます。両方が揃うと親が丸めたまんじゅうをつぶして、子どもがあんこを載せると丸められたまんじゅうはかっからの葉に乗せて膨らませます。その時の作業のにぎやかさ、楽しさは兄弟が多かったので忘れられません。たくさん作るのでその忙しさも大変のものでした。ふっくらと膨らんだまんじゅうはせいろに入れて次から次からと蒸していきます。 出来たものは大きなかごに入れて櫓の中に入れ
食べる時まで置きます。

又、トコロテンのかけ汁はこれまた天下一品。 それぞれの家の父親は海に出てイッサキ、タイなどの魚を釣ってきて置き、それを当日囲炉裏で焼き、その魚を出汁にしてトコロテンのかけ汁を作るので、そのおいしいことといったら今は味わえないほどです。 何も他にお料理がなくともこのふくれまんじゅうとトコロテンがあれば、聖母被昇天の大きなお祝い日のごちそうでした。 嬉しさいっぱい、喜びいっぱいでお祝いをした　子どもの頃の思い出です。今も長崎では、ふくれまんじゅうとトコロテンで祝っている人々は いるのかな？